

琉球大学学術リポジトリ

再び甘蔗のテングス病について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19573

な故 害は更に大きくなる事は想像に難しくない。

何故に本病は各国研究所の弛まない研究と政府の東京的予算運用にもかかわらず其の根絶は困難だろうか以下其の原因体と感染する経路について調べて見ますと、

本伝染病の病原体は一九〇三年の過性病毒(トールス)である事が発見されたが此の病毒というのは細菌と異り如何なる光学顕微鏡でも発見されなかつたもので極微細なる過性の孔も透過して捕捉されないものでたゞ其の病毒の端のみ出す結果によつて認められるものである。此の病毒は病豚のあらゆる臓器分泌物、排泄物中に含まれる。即ちり病豚の尿、鼻汁、唾液、眼液より排泄され此が経口的に再取される場合自然感染が成立つわけである。其の感染経路としては人が手足、履物、衣服等に病毒を附着し或は牛、馬、犬、猪、鶏、鼠、雀、鷹其他野鳥昆虫等より病毒が運搬され、又肥料により或は舎具、藁、野干草、飼料等により運ばれ本病發生の因となる。河川に豚屍体或は其の残物をすてたため下流域に多数の発生を見た事例がある又本病の發生に重大な関係を持つものに牛肉及び肉製品(ラードも此に含まれる)がある。此等は前述せる大分県の例にも示す通りで、り病豚及び潜伏期中の豚肉を利用する事に基くもので一九一五年―一九三二年の五カ年間北米ヌーランド州で二六七七件の豚コレラ發生中二四五件(八四%)は実に病豚肉に起因したが此は農民の自家屠殺と自由販売によるものと考へられている。肉製品に就いては冷凍された病豚肉で九五日後病毒を証明し二五%の食塩液に漬けたもの(油漚の塩豚は乾塩法による場合が多いが其際大体重量の五%位の塩をこすり込んである)は三週間伝染性を持ち又塩漬(水一〇〇に塩二〇の割合)したハム(臘肉)が八〇日後、尚病毒が生存していた事が証明され結局塩漬しても病毒は滅殺されないという事が云われる。其他潜伏期中の牡豚との交配或は潜伏期中の豚の購入移動により発生する場合も多い。これによつて油漚にあつた終戦後の事例を想い出して見ますと次の様な事件がある。(つゞく)

(宮 城 正 夫)

再び甘蔗のテングス病について

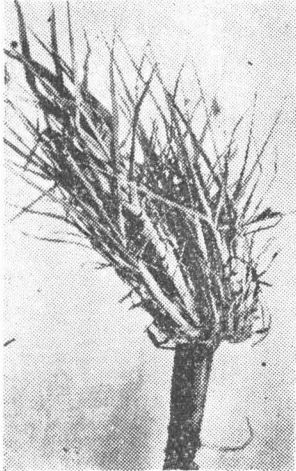
これまで交付がなかつた甘蔗の新しい病害が宮古で発見されたことは本誌第一号にのせた。これはその簡報である。

一、本病はこれまで夏植のみに発生すると思われていたが、春植にも発生することがわかつた。第一図のように株の頂端が穂状になり一枚の葉鞘に包まれている。この部分を解いて中を檢べると、梢頭部の芽子が十数本、多いの数十本、異状群生している。この病状がすゝむと第二図の様に薺状となる筈である

第一図 梢頭部が葉せうに包まれて穂ばらみ状になつている(春植)



第二図 梢頭部がほうき状となつたもの。所謂てんぐすく病の極端な形をしている(夏植)



が、春植に於ては薺様に展開したものは殆んど見当らない。二、三月現在の調査によると、新植の夏植にすでに発生している。

其方は前者と異つて穂状のものではなく、匪徒の中途に節間短縮の病状を呈する。即ち地上四―五節目から短縮が起り四、五節で終り、あとは再び普通並の生長を取戻しているのが普通である。この短縮部にある芽が伸長するために、被病部がやゝ扁平になつて見える。(第三図)病株から出る葉は多く淡黄色と緑色のモザイク状をなしている。或いは多斑をなすものもある。この病斑は、夏季の高温時に消失するのではなからうか。即ちマスキング(潜伏)するらしく思われる。

三、春植の被病茎についてアリックスを測つたところ、健全茎に比べて何れも一―二度低い結果を得た。即ち減収と品質低下が予想される。

四、上へのべた諸点から推察出来るように、昨年に比べて發生の時期が早目になつている。つまり、より稚い甘蔗に發生するようになつた。且つ宮古島における発生地域も広くなり、被害度もひどくなつてゐるようである。

油漚本島にも第一図と同じ病状のものが南部方面に発生しているが極めて少い。

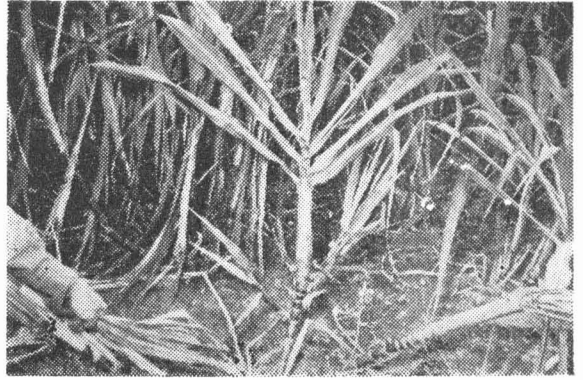
五、病因と病名について、病因は未だ断定するに至らないが、諸種の事柄から判断してバイラス(伝染病毒)のように思われる。そこで病状も勘案して本病を「さとうきびの天狗草病」と呼びたい。

六、防除についての注意事項は次の如くである。

一、無病畑から採苗すること。

二、バイラス病は兎角それを媒介する昆虫が居るから、その駆除を行わねばならぬ。

三、キビのワタムシ、コバネナガカメムシ、ウンカ類、ヨコバヒ



第三図 節間が短縮し其部分の芽が異状に發育する
葉もモザイク斑を呈するものが多い(夏植)

類の駆除には本病の防除も役立つと思われる。
ハ、事情が許せば輸作をして一、二回甘蔗以外の作物を入れた。
ス。
ニ、将来の問題として、抵抗性品種の育成若くは導入の研究がある。(鳥袋俊一)

農家と木工(3)

椅子の製作

一、椅子のはたらきについて

書斎や事務所等で読書や仕事をするときの椅子、休息のため

に使われる椅子をデザインする場合には、どんな点に気をつけたりよいか。どうしたら掛け心地のよい能率的な椅子をデザインすることが出来るか。椅子のデザインは勝手な想定や、風変わりな形体を主むことではないと思ひます。
そういつた点について、椅子の基本的な問題にふれてみたいと思ひます。

これまでの木製の椅子から最近では、工業技術と新材料の発明によつて、従来の椅子の常識を脱したものがあつます。特にアメリカのイームズ等の如何にも掛け心地のよい成形合板や、合成樹脂の曲面構成の椅子から、更に鋼線の網で作られた椅子はデザインを飛躍させたものであります。

この新しい技術と材料が次々と發展するからこの様な条件の組合せはデザイナーにとつては今日非常に重要な条件となつています。
故にこれらの基礎のない椅子の形体の追求は何等の意味のないものである。

最近スエーデンのベンクト・オツカープロムという医者の研究が公表されて、椅子と人体の工学的な理論や実験によつて、その有機的な關係を明らかにしている。
つまり椅子のデザインのむずかしさはこの点にある。

私達が毎日のバス、時々旅行に経験する車の座席では確かにその掛け心地のよし悪を意識することが多い。こんな時に専門的な立場からその理由を分析してみると、座席が高過ぎるとか、低過ぎるとか、座席の奥行が狭過ぎるとか、傾斜が足りないとか、背当りが悪いとか、クッションの硬軟、いろいろの理由を発見する。

家庭の場合では生活や行動の自由が許されるから、さして問題ではないかも知れないが、それでも、長時間の読書や、接客などの場合、毎日使つてゐる椅子に対しては、しばしば不満をもつことがある。これも案外人間の慣れで平気でいられる場合が多い。

作業場の立位で、長時間の仕事に脚をはらせて疲れはてる勞

働者、事務所でも高過ぎる椅子や、高さの著しい椅子と机で頸約り姿勢で執務していたり、座の落ち込んだ椅子に背を丸めて仕事を續けている人達は又の毒であり、よく見かけることである。一般には實際椅子の座面の高さは約四五種であつて机の高さとの差尺は約三〇種となつてゐる。

この様な現実の問題はたゞ寸法だけの問題ではないのであつて、なかなか複雑な要素からなりたつてゐるようである。例えば、

(一) 執務の種類による活動の姿勢(読書・書記・家事・仕事等)

(二) 休息の種類による姿勢(接客・喫煙・喫茶・談話・休憩睡眠等)

の場合の能率・疲労回復・姿勢の変化等に対する適合性から、次の問題が起つてくる。

(A) 人体を支持する面の形や材料と体圧の分布状態。
(B) 動作と全体構成。

(C) 体圧の分布、接触材料との摩擦とクッション。

これが交通機関の座席になると更に、疲労と不快にもつとも大きな要素となる振動や、衝撃とを如何に吸収するかは重要問題である。学童の椅子が学童の心身に及ぼす影響を考へても、あまり無関心ではないだろうか。

二、椅子の寸法

椅子の形は座面とよりかゝりと肘受(ひぢうけ)の三つから構成されてゐる。

(1) 座の高さ

座の高さは、椅子の性質を左右する重要な鍵であつて、その椅子が活動系のものであれば高くし、休息系のものであれば低くなる。

大人用活動系椅子一三九種より四五種
大人用休息系椅子一三二種より三六種

(2) 座の奥行